

TPDS NEWS



※ TPDS = Tokyo Plastic Dental Society = (一社) 東京形成歯科研究会

Vol.22

配信日：2020年12月9日

配信元：(一社) 東京形成歯科研究会 事務局

東京形成歯科研究会

日本歯科新聞 記事紹介

日本歯科新聞に掲載された東京形成歯科研究会の記事をご紹介します。

媒体：日本歯科新聞

掲載日：2020年11月10日(火曜日)

掲載ページ：6面

記事タイトル：東京形成歯科研究会 インプラント治療のニーズを模索

記事内容：Emailの場合“別添”、FAXの場合“本状含め2枚目”

後日、当会 Web サイト(下記・アドレス)に掲載します。上記の他にも記事を紹介(掲載)しています。

<http://www.tpdimplant.com/archive/>

東京形成歯科研究会 インプラント治療 のニーズを模索



めの技術向上、実践的な場合の必要性から今年からの企画、実施となった。

インプラント治療によって恩恵を受ける患者のニーズに対応するための治療方法について議論を交わすという全体構成になっていく。また、オープン形式で行われ、非会員が自由に参加できる体制を整えているのも特徴。

オープン形式の一般講演に先立ち9時からは会員限定のクローズ講演が行われ、JSSOI専修医および専門医を目指している会員が、JSSOIでの発表形式に則って症例を発表。会員からも活発な質問があり、改善点などが指摘された。

◆◆◆
オープン形式の一般講演

では、月岡会長のあいさつの後、各委員会の委員長として試験対策は辻野哲弘氏、学術は渡辺泰典氏、教育は奥寺俊允氏、広報は川端秀男氏、技術は磯邊和重氏が紹介された。

セッションは、症例発表からスタートし、テーマに加え、多数歯欠損にフォーカスをあて、さまざまな治療方法の中から患者中心の治療を行うための治療計画と実施について症例解説を交え提示し、ウェブ視聴者からの質問に答えていく形で行われた。

大久保将哉氏からは、詳細な数値分析を基にフルマウスリコンストラクションをインプラントで行った症例報告、大川穂氏からはPRP派生物質を使用したインプラント治療について報告があった。

午後も症例発表とセッションが続ぎ、川崎智之氏からは患者にとつての低侵襲性インプラント治療選択、岡吉孝氏からは前歯部顎堤保存のためのテクニクと患者側に立った治療の考察があり、今回のテーマに沿った発表に対し、活発な質疑応答があった。

また、辻野試験対策委員長からは「JSSOI専門医への道標」と題した試験対策についての詳細な解説、渡辺学術委員長からは論文作成についての解説があった。

最終セッションでは、会員6人によるパネルディスカッションが行われた。相澤八大氏の症例提示に関して各パネリストが治療計画を提示し、それに対し全員で議論した。

症例は多数歯欠損のもので、上顎臼歯部の高度骨吸収を有した難易度の高いもので、全顎治療を基本に多数の治療方法が提案された。特に、エビデンスに基づく治療計画として患者側の侵襲とコスト低減で論点が白熱し、パネリストの臨床レベルの高さを示した。

東京形成歯科研究会(月岡庸之会長)は、「今求められているインプラント治療とは？」をテーマに、令和2年第一回例会を10月18日に開催した。コロナ禍の影響を考慮し、ウェブ上のオンライン開催となったが、会員及び会員外の約50人が参加したII写真。

同研究会では従来から総会と記念講演会といった全体集会を開催しているが、同例会は、より症例の臨床的な検討と日本口腔インプラント学会(JSSOI)専門医および指導医取得のた